

「治水と環境とまちづくりが調和した 大橋川改修の具体的な内容」を公表します

具体的内容の基本的考え方

- ・ 大橋川改修にあたっては、「治水」と「環境」と「まちづくり」が調和する改修を考えています。

治水

- 洪水時の宍道湖の水位をH.P.+2.5mに抑え、洪水を安全に流下させるための断面を確保します。
 - 河床の掘削を優先し、その上で拡幅による地域社会への影響を小さくする河道とします。
- 松江市街地中心部を大橋川の水位上昇から守るため、無堤部の築堤を行います。

環境

- 宍道湖・中海に生息、生育する生物への影響を考え、水環境に大きな変化を与えないよう配慮します。
 - 大橋川内にあるマウンド(河床の高いところ)を保全します。

まちづくり

- 改修にあたっては、沿川のまちづくりと調和した計画とします。
 - 堤防・護岸の形状や架け替えとなる橋梁(大橋、新大橋)のデザインに関して、国際文化観光都市である松江市の景観にふさわしいものとします。

今回の提示内容

- ・ 今回は、河川改修の骨格となる「堤防法線」「計画の堤防高」「代表的な横断形状」等の、洪水の流れる器の部分を発表しています。
- ・ また、松江市、島根県と連携して「沿川の道路整備の構想」と、「市街地のまちづくりの考え方」も公表しています。

説明会の予定

- ・ 12月3日以降12月中に、大橋川沿川の住民で構成された「治水対策地区協議会」等への説明会を順次行います。
- ・ また、一般を対象とした説明会を12月18日と19日の両日に以下のとおり実施します。
12月18日(土) 10:00~11:00、14:00~15:00(2回開催) 会場：スティックビル
12月19日(日) 10:00~11:00、14:00~15:00(2回開催) 会場：くにびきメッセ

今後の進め方

- 「環境」との調和について、改修による水環境や生物への影響に関して、様々な分野の学識経験者からなる委員会「環境に関する検討委員会（仮称）」を設置し、調査・検討を行っていきます。
- 「まちづくり」との調和については、堤防、護岸の形状、改修により架け替えとなる橋梁（大橋、新大橋）のデザイン等に関して、まちづくりの検討委員会の設置などを通じて、地域の皆様のご意見を頂きながら検討を行っていきます。
- 沿川の住民の皆様の了解を得た後、具体的計画策定のため、大橋川沿川の詳細な地形測量を実施します。

H.P.とは、大橋川や宍道湖などで河川の改修を行う際の基準となる高さを表したものです。

（参 考）

今回「具体的な内容」公表した背景

- 大橋川改修は、昭和54年の計画提示以降、農林水産省の「国営中海土地改良事業」の大幅変更による中海・宍道湖の淡水化中止などの前提条件の変更や、大橋川が松江市街地を貫流していることなどから、新たな改修案を策定しました。

具体的内容の概要

- 洪水時の宍道湖の水位を H.P.+2.5m に抑え洪水を安全に流下させるための断面を確保するため、河床の掘削を優先し、その上で拡幅による地域への影響を小さくする河道としました。
 - ・上流部では、宍道湖から大橋川への呑口部の流れをスムーズにするための拡幅と、狭窄部である大橋～新大橋間で約 140m（橋南側を約 20m の拡幅）の河幅を確保します。
 - ・中流部では、剣先川を現状の川筋に沿って約 150m の河幅を確保します。
 - ・下流部では、狭窄部の矢田地区付近で約 170m（両岸に約 40m の拡幅）の河幅を確保します。
- 松江市街地中心部を大橋川の水位上昇から守るため無堤部の築堤を行います。
- 宍道湖と中海に生息・生育する生物への影響を考え、水環境に大きな変化を与えないようにするため、大橋川内にあるマウンド（河床の高いところ）を保全することとしました。
このため、H.P.-3.5m より浅い箇所について掘削を行います。

< 問い合わせ先 >

国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

TEL 0853 - 21 - 1850

(技) 副所長 おさかだ かたし
 小坂田 堅

建設専門官 さかき こうじ
 阪木 浩二

公 表 資 料

公表資料は、大橋川コミュニティーセンターと国土交通省出雲河川事務所で、閲覧することができます。

- 大橋川改修の具体的内容を示した冊子
- 平面図 計画の堤防法線が入ったもの（縮尺：1 / 2 , 5 0 0 ）
- 縦断図 大橋川の川底の形状や河岸の地盤高、堤防高を表したもの
- 横断図 代表的な箇所での計画の断面形状を表したもの
- 今後のまちづくりの考え方
- その他 説明会の時に使用した資料

印のついたものは、大橋川コミュニティーセンターのホームページでも
見ることができます。